

Petzel

Hiroki Tsukuda, "Special Gravure & Interview," *Quanto*, June 2011, pp. 10-14.



 003. Atom Heart Mother	 002. Airhead U-T	 001. Airhead S-T	作品制作の動機 「マスク作品は、2005年に、友人の洋服のブランドの出し物で、カッパイマキンを作るというのがきっかけでした。それ以来、いろいろ試行錯誤した結果、プラモやカラダを使ってゴージャスにたんだ、これがカッコよくて、作ってる途中から、自分で飾ってポーズをめちゃくちゃして(笑)、1個作るとあとはほとんど素材も絞って、今の様な感じになりましたね。フィギュア作品は、トイキョーカルチャー、by ビームへのディレクター永井さんのマスクをゴージャスで作るみたいだ、フィギュアも作ってみようという一言がきっかけでした。そのひとりで、小さい頃、フィギュアやプラモをバラバラにして、オリジナルキャラクターを作るのにハマってたというのを思い出したんですよ。そんな時、絶対今ならもっとスゲーのが作れるに違いないと信じてましたね。」	
 013. Castro Mk2	 010. Bocuma	 006. Blackout Enforcer	 007. Black Hole Walker	 004. Baphomet 4000
 023. Fat Fine	作品のコンセプト 「90年代はアメトライブがブームで、今考えたら馬鹿らしいんだけど、わずかなカードの印刷の違いやエラー品、パシジョン違い、生産数の少ない物にとんでもないプレミアがついたりしてたんですね。当時は今みたいにネット通販が無かったから、さんさん歩き回って探したりして。たまたま、ネットオークションでそれらが安く出てくるようになって、よ。しかも入れば、友人からその現状を覚えてもらってたんだ。あの情熱はいつい何だったんだ? と少し悲しい気持ちになって、そんな誰にも必要とされないヤンを大量に落札し、自分がかたて新しく価値あるキャラクター、I.N.E.W.キャラクターとして復活させてやると思ったんですよ。これは、プレラや希少価値という概念を嘲笑う行為で、スガッと思いました。」		 022. Emerald Dance	 017. Crimson Pyramid
 039. Ho Ho Ho Commander	 034. Grind Mortor	 033. Gorgon Bitch	 028. Gentle Specter	 025. G-Rider
お気に入りのキャラ 「お気に入りのキャラは、070. One Cup Orack、マキアクターです。チェーパッカの身体にジェダイのローブを被せコップを持たせただけ、なんつーかこのたすきが、夜中にパズルを羽織って寝るをひびきやってくる。だいたい自分に見えなくて(笑)。あとは、マックスレボにレナのミニチュアを添えて毛をまきさせた006. Big Blue Babyも気に入ってますね。マックスレボのハンギニアは、四伏のキーボードに下半身をつ込んだ状態でバックレジされてるから、下半身がどうなってるかわからなかつたんだけど、バックレジを開けて、マックスレボをキーボードから引き抜いたら、オムツ履いてヒックリ!! このオムツが生かされて良かったです。」		 043. Hypnosis	 042. Humid Mind	 040. Ho Ho Ho Gunner

Petzel

Hiroki Tsukuda, "Special Gravure & Interview," *Quanto*, June 2011, pp. 10-14.

SPECIAL GRAVURE & INTERVIEW
4010 NIGHT TIME LOOSE COLLAGE ACTION FIGURE
by Hiroki Tsukuda



006. Big Blue Baby



Petzel

Hiroki Tsukuda, "Special Gravure & Interview," *Quanto*, June 2011, pp. 10-14.

— **“The World’s Most Powerful People”**

制作上のテクニク



051. Light My Fire



047. JETT



068. New Family



061, McCoy T



059. Manitou



056. Mad Special



054. Love Theme



078. Poppa Doo



076. Polar Bear

お宝に入りのアメフト

●最初に受けたのは、タワラ（現タカラ）トニーから出た「レイジ・コナー」で選手ザイナーが「ザイン」の80年代のチヨロオです。チヨロオといふキャラクター、未来的なイメージをこめて、3歳か4歳だった僕は、それ以外のうち中にもなりました。今では考えられないような企画ですが、トランスフォーメーションや「閃光」にもハマりました。アメフトなら、閃光に業めたのが「FIREBOLT」(SPAWN、スター・ウォーズ)と集めていました。僕には割と古道具といえるので、本々手帳から出してその開封しているのをマリアンに白目で見せられたらしい(笑)。あと、サ・サ・ス・ソブ・オボネツ社社のマジック・ザ・キャプテンリングで、今でもカードゲームは15年くらい前からハマって、今でもたまにハマります。それと、昔のお宝に入りは、アメリカのター・アムズが売っていた、「フォークのぬいぐるみ」(毎晩、ぬいぐるみ)。



073. Peep Show



090. The Phoenix



089. The Great Composer



086. Tarkus



085. Tak-C



079. Protein Munchy



098. Wan Wan Koons



093. Totem Pole



092. To-Sen-Bo



091. Timmy Roy Jr.

アメトイの魅力

Petzel

Hiroki Tsukuda, "Special Gravure & Interview," *Quanto*, June 2011, pp. 10-14.

SPECIAL GRAVURE & INTERVIEW
4010 NIGHT TIME LOOSE COLLAGE ACTION FIGURE
by Hiroki Tsukuda



Photo_Kazuhige Takashima

13 Quanto

HIROKI TSUKUDA

佃 弘樹

1978年、香川県生まれ。
2001年、武蔵野美術大学
造形学部卒業。コンテンポ
ラリーアートギャラリー「NANZUKA
UNDERGROUND」所属。平
面構成的な抽象表現を得意とし、
光と影、建築と自然、自然
認識と錯覚といったテーマを基
に、風景画を描いているアーティ
スト。現在は、Hローイングを主
に制作している。NANZUKA
UNDERGROUNDでの展示の
他、近年は海外のアートフェアに
て作品の発表も行っている。ま
た、2009年には、HMMと日本
人として初のコラボレーションワ
ークを開催する等、多方面で活動。
『2009 Bacon Prize @ Art
Fair Tokyo』受賞。この夏はベ
ルリンに滞在し、制作をする予定。



Photo: Hiroshi MASUDA (www.tokyoversion.com)



worker
H500 x W220 x D310 mm
Mixed Media / 2008



Night Timer



Midnight Frank



Thunder Hook DV



Jenny Ice Cunt



Captain Sustromming

4010 NIGHT TIME
○価格各3,000円(税込・送料別)
佃氏が制作したカラーグラフィ
ック作品を、1-11-11 カル
チャー by ビームス上のコラ
ボレーションで数量化。鮮彩色
のレジン素材が、マスコット・ア
クションフィギュアの成型色を
彷彿させる。

TOKYO CULTART by BEAMS



トーキョーカルチャー by ビームス
○住所：東京都渋谷区神宮前3-24-7 3F 4F(ビームス 南横の上)
○営業時間：11:00~20:00 ○不定休
○TEL: 03-3470-3251
○URL: www.beams.co.jp/

「CULT(カルチャー)」「CULTURE(文化)」「ART(芸術)」を組み合
わせたネーミングで、「東京」から生み出されるアート、デザイン、
カルチャーを、世界に発信。クリエイティブオフィスのような店
内には、アート作品やデザインブック、関連書籍のほか、フィ
ギュアや雑貨などのコラによる個性ショップなどの限定トイも販
売。今回開催した佃氏の作品(価格各2万1,000円(税込))や、
上記コラボフィギュアも販売中。また、定期的に全国展開も開催。



Photo: Takashi Iizuka

NANZUKA UNDERGROUND



**NANZUKA
UNDERGROUND**

ナンズカ アンダーグラウンド
○住所：東京都港区白金3-1-15
SHIROKANE ART COMPLEX 2F
○営業時間：11:00~19:00 ○定休日：日、月曜日
○TEL: 03-6459-3130 ○URL: www.nuas.jp

2005年、南横美術館によって設立された、コンテンポラリー
アートギャラリー。田名網野一氏や空山基氏といった、戦後
日本の美術制度の中で育ちながら、国際的な特異
性の中で再評価される仕事に努めている一方、国内外の若手
及び中堅作家の育成と紹介を行っている。東京・渋谷でも
「NANZUKA AGENDA」を展開。ファッション、音楽、デザ
インとの交流も積極的に行い、アートとデザイン、商品とアート、
日常との関係といった現代美術の主要な問題に對して、実
験的な挑戦を試みている。

